

世紀のアジアの森

吉田地区にできたこの森の名前は、アジア諸国の国際協力が続くことを願って、「21 世紀」から「22 世紀」に変更されました。

秋には、メタセコイアグリプトストロボイデス（*Metasequoia glyptostroboides*）の紅葉が鮮やかに楽しめます。1953 年には約 400 本のドーンレッドウッドが植えられました。

ドーンレッドウッド

ドーン・レッドウッドの木は一般的に高さが 3～4 メートルで、年に 1 メートルも成長します。この木の主な特徴は、左右対称の葉が、茎から突き出た茎の上でジグザグ状に対向していることです。カリフォルニアの巨大なセコイアやコーストレッドウッドに似ていますが、ドーンレッドウッドは落葉性で、葉が枝に沿って直接対向して生えている点が異なります。

中国湖北省に自生する樹木です。生きた化石と呼ばれることも多く、当初は 100 万年前に絶滅したと考えられていました。1941 年、日本の植物学者である三木茂氏が、一部の木の化石をメタセコイアという新属として同定しました。その 2 年後、中国の森林学者が現在の湖北省モウダオで発見された未確認種の木の標本を採取したところ、1948 年にメタセコイアの生きた標本であることが確認されました。1949 年には、ドーン・レッドウッドの若木と種子が日本に持ち込まれ、皇室に献上されました。すぐに木は全国各地に分布されました。